

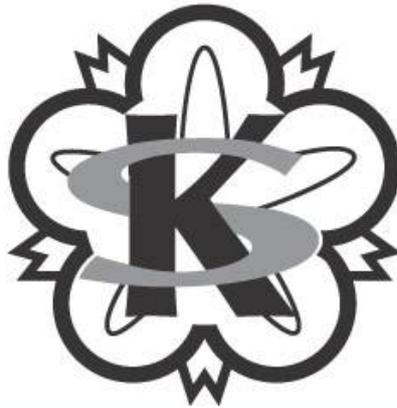
令和4年度 東京都立小石川中等教育学校

小石川フィロソフィーVガイダンス資料

第5学年 小石川フィロソフィーV

令和4年度 RL-Room 概要集

Research Learning Room



5年 組 番	氏名	
-----------	----	--

RL-Room 一覧

番号	担当	RL-Room 名	定員
1		メディアリテラシー	13名
2		物語研究 (ナラトロジー：narratology)	13名
3		Cool Japan 海外へ広がる日本文化	13名
4		歴史の見方・考え方	13名
5		数学研究	26名
6		空飛ぶ物理一座	7名
7		化学分野の研究	7名
8		となりの生物探究	7名
9		地学研究	7名
10		スポーツ・保健体育	13名
11		音楽表現	7名
12		「美術にまつわる研究」	7名
13		SDGs 国際研究	13名
14		国際理解・Parliamentary Debate	13名

自分用のメモ

第一希望

第二希望

第三希望

第四希望

第五希望

※ できるだけ希望に添えるように調整しますが、第五希望まで記入してください。

記入がなかったり、同じ番号ご記入されたりしている場合は、一任とみなします。

RL-Room 開始までの流れ

4月13日（水）3・4時間目 RL-Room 説明会

- 1) RL-Room 担当の先生による説明を聞く。
- 2) RL-Room 希望調査を提出する。

4月14日（木）

3) RL-Room 別の第一希望人数を掲示するので、希望を変更する場合は「変更届」を提出する。

※第一希望を優先して調整します。定員を超過した場合は、第二から第五希望の RL-Room の中で、定員を超過していない RL-Room に割り当て行います。定員を超過した RL-Room を希望している生徒は、予め希望を変更することができます。

※変更届は職員室奥側のドア付近にあります。変更締め切りは4月15日（金）17:00

4月20日（水）3・4時間目

- 4) 図書館の利用等に関するガイダンス

4月27日（水）

- 5) 各 RL-Room の学習スタート

番号	RL-Room	担当	人数
1	メディアリテラシー		13人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>大手メディアの情報とネットの情報。どのような「情報」であれ、そこには発信する側と受信する側のバイアスがかかっている。溢れる情報を、映像や音楽、動的コンテンツなどのマルチメディアは、どのように表現し我々に発信しているのだろう。メディアを通して発信される情報を、我々はどうのように吟味し、評価していく必要があるのか、を考えていきたい。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>「話す・聞く」「読む」「書く」という行為のほかに、「みる (見・観・視)」ということ意識し、メディアを分析していく。「みること」に興味を持てる生徒、また、「話す・聞く」「読む」「書く」「みる (見・観・視)」という力を身につけたい生徒を求む。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
筆記用具			
費用 (見込み)			
書籍購入費など			

番号	RL-Room	担当	人数
2	物語研究 (ナラトロジー : narratology)		13人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>物語は何故生まれたか。我々に感動を与える物語の「核」は何か。全世界で、または時代を超越する要素は何か。ある限られた民族の内において、限られた状況下でのみ求められる条件はあるか。物語の核を表す「譚」を中心に、各自が研究を進める講座である。</p> <p>対象作品はジャンル及び言語を問わない (神話、説話、小説、映画、漫画等) が、授業担当者と相談の上、決定する。変身譚、冒険譚、異種婚姻譚といった類型から、「ノーベル文学賞」「10代」「海外で評価される日本文学」「アカデミー賞」といったテーマ等での分類を試みる。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>すでに構築された文学理論であり、難解な先行文献を読み解く必要がある。先行研究をなぞるだけにならないよう、熱をもって向き合える作品にすでに出会っていることが望ましい。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
筆記用具、ノート			
費用 (見込み)			
書籍代等			

番号	RL-Room	担当	人数
3	Cool Japan 海外へ広がる日本文化		13人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>海外へ発信された日本文化、海外へ発信したい日本文化についての研究を通して、日本文化の特殊性・普遍性を探る。</p> <p>最初に COOL JAPAN に関する基本的な情報を得る。講義・輪読(英語論文)を行う。</p> <p>その後、各自が決めたテーマについて調査・発表し、論文をまとめる。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>アニメやマンガ、カワイイなどのオタク系文化や、歌舞伎・和食などの伝統文化に興味がある人の参加を待つ。海外からみた日本文化を理解するために、最初に Cool Japan の代表例としてマンガ・アニメに関して講義を行い、その後英語論文の輪読(1つの長い文章や本を、少しずつ分担して読んで、他の人に紹介する)を行う。英語論文の英語は、特に難しくはないはずだが、簡単ではないことと、背景にある社会情勢などを知らないと分かりにくい部分もあるので、甘く見ないように。</p> <p>その後は、自分で決めたテーマを調査していくので、文献を読んだり、資料を調べたりすることが好きでなければいけない。講座内で途中経過の報告・討論をするので、自分が調査している分野以外のことにも積極的に興味・関心を持って発言できなければいけない。</p> <p>原則として毎回アクションペーパー(何をやったか・次回への課題)の提出を求める。その他、発表のレジュメ等の提出を求める。提出期限をきちんと守れないといけない。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
昨年度までのレポートに目を通しておくこと良い。			
費用 (見込み)			
特に無し			

番号	RL-Room	担当	人数
4	歴史の見方・考え方		13人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>一般的に“歴史は変わらない”と言われます。しかし、新しい発見や発掘、新しい学説の発表などにより、歴史は変わっているのです。</p> <p>この講座では、昔と見方や考え方が変わっている歴史的事象を研究したり、以前とは評価が異なっている人物を追究したりすることが考えられます。また、日本と外国とで捉え方が違っている出来事について検討したりしてもらいます。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<ul style="list-style-type: none"> • できれば日本の歴史のなかからテーマを選んでもらいます。 • マニアックなテーマではなく、1年間をかけて追究するようなテーマを選んでください。 • こちらはアドバイスをする立場なので、自分で計画通りに研究を進められるようにしてください。 			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<ul style="list-style-type: none"> • 授業が始まったら、収集した資料をまとめておくファイルを各自で準備してください。 			
費用 (見込み)			
<p>テーマ設定の参考となる資料はこちらで準備しますが、テーマ追究に必要な資料・文献は各自で用意してください。また、学校外に調査に出かける際の交通費も各自負担となります。</p>			

番号	RL-Room	担当	人数
5	数学研究		26人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>数学を深く学びたい人や、自分が興味をもっていること(数学以外の分野)を数理的に解明したい人や数学的に創作したい人を募集します。※ 興味をもっていることとは何でもよいのですが、例えばフィロの授業中に理科室で実験することなどはできません。</p> <p>研究内容は各自が深めます。それに対して先生は各自の研究をサポートします。</p> <p>全員が夏休み明けの Math コン (研究レポートの応募)、統計グラフコンクールを皮切りに、いろいろなコンクールや外部での発表に挑戦します。12月の都内SSH 校生徒研究発表会と1月のマスフォーラムには全員が参加し、発表します。</p> <p>上記以外に、各自が校外でのポスター発表や口頭発表を経験します。年間の研究スケジュールとどこで発表するかは各自で考えます。先生は、その発表のときに数学的な視点で見た時の研究の展開、成果物の表現方法、発表の仕方を個別に助言していきます。</p> <p>また、数理的に解明する手段として、数値解析ソフト MATLAB の活用も経験します。MATLABのお作法、線形代数の知識、ポスターの作成方法については全員が1学期に学びます。</p> <p>フィロVの1年間を通して大学や社会に出てから役に立つ貴重な経験ができるでしょう。</p> <p>1月には数学オリンピックがあり、受験をお勧めします。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
自らが課題の扉を開けて、恐れず分け入って切り拓く態度が大切です。			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
筆記用具			
費用 (見込み)			
<p>図書館で書籍を借りることができますが、必要なら各自で随時興味のある書籍等を購入してください。</p> <p>校外で発表したり、他校の発表を聞きにいたりするときなどの交通費は原則自己負担となります。</p>			

番号	RL-Room	担当教員	人数
6	空飛ぶ物理一座		7人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>① 物理チャレンジへの参加を通じて実験の技術とレポートの書き方を学ぶ。</p> <p>② テーマを設定する。 ⇒ 最も重要な部分。物理分野の疑問や、調べたいことからテーマを設定・調整し、 ※原則テーマの近い者同士での少人数グループでの研究活動とする予定。</p> <p>③ 研究活動を行う。</p> <p>④ 年度末のフィロ発表会やSSH発表会、外部のコンクール等で、成果を発表する。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・やる気ある生徒、教員の指示を待つのではなく自ら考えて行動できる人、あきらめない人のみ受講希望してください。 ・定員を上回る希望があった場合は、すでに今年度の物理チャレンジの実験課題に取り組んでいる人を優先します。 ・研究内容によっては、実験に必要な物品を購入してもらう必要があります。費用負担があることを、保護者の方とともに了承してください。 			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・物理チャレンジのウェブサイトを事前に閲覧しておき、実験課題を確認しておいて下さい。(各自で取り組みを進めてもらっても構いません。) ・自分の興味関心を見つめなおし、研究テーマを考えておく。その上で、物理分野の疑問や調べてみたいことを3つ以上探しておく。 ・昨年度までの自分の小石川フィロソフィーの活動内容に目を通して確認しておく。 ・初回に、フィロ5ノート、筆記用具、調べたいテーマに関する書籍/資料を持参すること。 			
費用 (見込み)			
<ul style="list-style-type: none"> ・各自の実験に必要な物品の購入代 (実験装置は、物理室にあるものは、基本無料で利用可) 			

番号	RL-Room	担当教員	人数
7	化学分野の研究		7人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p><目標> 各自の興味分野(化学分野の内容)について探究し、発表を通じて深め、論文にまとめる。その過程を通じて、課題解決力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を伸長する。</p> <p><進め方> ①化学分野の疑問や、調べたいことを探す。 → 化学に興味があり、疑問を思いつく生徒が、この講座の受講に適している。 ②テーマを設定する。 → 研究の道筋が立てられたものの中から、テーマを一つに絞る。 テーマの設定こそ、最も時間がかかり、もっとも重要な部分である。 ③研究活動を行う。 → 場合によっては放課後のオープンラボも活用して、研究を行う。 研究の進捗状況に気を配り、先の予定を考えながら進めることが必要である。 ④講座内中間発表会やフィロV発表会、シンガポール修学旅行、外部の発表会等で、成果を発表する。 → 原則として、受講者全員が何らかの発表を行う。 発表のための資料作りや、発表練習も必要である。 最終的な提出物(予定): A3 ミニポスター1枚(英語)、発表原稿(日本語)、論文(日本語)</p>			
受講希望生徒へ(生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・化学分野の研究では、うまくいかないことでも継続的に試行錯誤を繰り返す忍耐力が必要です。大学等の研究にもつながる内容ですから、自身の将来を見据えた志をもって参加することを望みます。 ・化学の研究ですから、必ず実験を行います。 ・研究内容によっては、安価な物品を購入してもらう必要があります。費用負担があることを、保護者の方とともに了承してください。 			
初回までに準備しておくこと(課題や持ち物など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味関心を見つめなおし、研究テーマを考えておく。化学分野の疑問や、調べてみたいことを3つ以上探しておく。(昨年度までの研究やインターネット等も参考になる) ・白衣と安全めがね、実験ノート(自分の研究内容を記録するノート)を用意する。 ・初回に、調べたいテーマに関する書籍/資料を持参すること。 			
費用(見込み)			
各自の実験に必要な物品の購入代(実験装置は、化学室にあるものは、基本無料で利用可)			

番号	RL-Room	担当	人数
8	となりの生物探究		7人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありのままの生物の「日々の観察」や、生命倫理に配慮した実験等を通して、生物の理を探究する。 ・年度内1人1回、日本学生科学賞等への論文投稿や、学会等の校外でのポスター発表を行う。 ・夏休み明けにはデータ解析、統計処理、ポスターの作成をする。 ・10月には日本語の論文作成、3月にシンガポールでの英語による発表をする。 <p>【研究過程】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の設定 気づきから、質疑と対話を繰り返して課題へとブラッシュアップする。同時に先行研究を調べながら、研究の先端を把握する。 2. 仮説の設定 仮説の裏付けに、研究論文や実験データなど、根拠資料を伴って設定する。 3. 検証計画の立案 検証計画の実践を伴いながら、条件出しや仮説及び計画の再検討を繰り返す。 結果の分析、及び統計処理を見通した検証計画へと仕上げる。 4. 結果と考察 再現性のある結果であること、及び考察を通して、次の仮説の設定を行う。 2-4を繰り返す 1で設定した課題への解決に向けて探究し続ける。(エンドレス) 5. 表現、伝達 探究を口頭発表、ポスター、論文にまとめる。(中身がないと書けません) ※ 随時、個々の進展に合わせてアドバイスする。 <p>【表現】</p> <p>いつでもどこでもプレゼン(15分、5分、1分)、A3ポスター(日本語/英語両方)、論文(日本語)</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>【要望・心構え】</p> <p>生物は、物理的環境や成長段階、遺伝的背景などで反応が多様に表れ、結果にバラつきが多い。そのため再現性を確認するには実験・観察・個体数を数多く行う必要があり、フィロVの時間外にも持続的観察と記録、実験とデータ処理に見舞われる。しかも佐野にとことん質問される。日々の観察、記録が楽しくてたまらない方、誰も気づかない自分だけが知る発見にニヤニヤしてしまう方、どうぞ。</p> <p>【選考方法】</p> <p>万が一抽選になった場合には、「現時点の仮の課題」「その課題に取組みたい理由」で精査する。</p> <p>【注意点】</p> <p>ヒトを除く生物を対象とする。特に動物界の生物を扱う場合、ISEFの国際ルールとガイドライン(研究倫理と生命倫理)に基づき、実験計画を設定する。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
取組みたい課題や疑問を3つ、およびそれぞれ「課題を取組みたい理由(目的)」「(根拠資料があるとなお良い)」について用意 (初回到口頭でプレゼン)。持ち物: 筆記用具、他人の話聞く態度。			
費用 (見込み)			
試薬は要相談。それ以外市販で購入できるものは個人購入となる。実験後の生物室への置き土産は不要。			

番号	RL-Room	担当	人数
9	地学研究		7人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>地学に関するテーマを設定し、データを集め、グラフ化して検討し、考察を行う。自然現象を捉えることは難しいが、地道に観測データを蓄積してまとめて欲しい。テーマによっては、フィールドに出向き、データをとらなくてはならないものもある。ちなみに、4回前の講座から相手を頼ってしまう人もいたので、共同研究は、認めていない。過去6年間の主なテーマは、</p>			
天体	変光星 3 H α 線による太陽プロミネンスの観測 1 流星の電波観測 3 アイソン彗星 1 月食時の最微光星 1 東京で天体観測をする方法 2		
湧水	赤羽自然観察公園 7 和光市白子湧水群 2 里美公園羅漢の井 1 柳の井戸 1 小豆沢公園の湧水 1 飛鳥山の湧水 1 柴又帝釈天の御神水 1 香取神社の地下水 1		
気象	酸性雨関係 6 雨滴の大きさと雲の厚さ 3 接地逆転層の観測 1 観天望気 1 視程 1 蜃気楼 1 雲の高さを求める 1 冬になるとなぜ黒板が消しにくくなるのか 1		
化石	飯室層の化石 2 飯室層の有孔虫 1 佐野市葛生のフズリナ 1 秩父のチャートから放散虫 1		
岩石・鉱物	渋沢峠の黄鉄鉱 1 砂に発生する泡について 1 広域テフラ (火山灰) の特徴について 1		
地震	異常震域 1 などである。引き継ぎを行い、継続研究ができるテーマもあるが、13期生が独自にテーマを設定し、取り組むことも期待している。		
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>地道に観測データを蓄積することは、とても大変な作業になります。途中である程度まとめてみると、方法が適しておらず、一からやり直さなければならないこともあります。フィロソフィの2時間は、途中経過を報告し、アドバイスを受ける時間です。とってきたデータをまとめる時間です。<u>この時間以外に観測をして、データが集められない人は、この講座には向いていません。</u>この1年の研究は、苦しいかもしれませんが、将来、大学で卒論を書く上で、きっと役に立つことでしょう。アドバイスを受けながら、前向きに取り組める生徒に受講して欲しいです。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<p>受講するか迷う人は、地学室に過去の先輩の論文や資料も置いてありますので、気軽に質問をしに来てください。 受講が決まった生徒は、何をどのように調べ、どうまとめていくか。いくつかのテーマの候補を準備してきてください。</p>			
費用 (見込み)			
フィールドへの交通費など			

番号	RL-Room	担当	人数
10	スポーツ・保健体育		13人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>1 学期は自身の興味関心をもとにして競技力向上のための動作分析の実験・検証、食事・休養方法、保健活動、環境と健康、競技特有のけがへの対処、スポーツ障害、リハビリテーション、予防法、各種競技にかかわるデータ記録を戦略や対戦、技術力向上における分析を行う。</p> <p>2 学期、3 学期は1 学期に取り組んだ内容を発展させ、研究を深め、発表できるように準備を進める。また、オリンピック・パラリンピックを支える分野や国際大会のもたらす経済効果や問題点、スポーツの発展やブームの社会的背景などについての研究も可能。</p> <p>3 学期は論文作成が主となる。</p> <p>《補足》先輩が行った研究に興味がある生徒は研究を引き継ぐことも可能。(図書室の論文冊子参考)</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
運動部活動を通して競技力向上を目指す人、または運動は得意でないがあらゆる側面からスポーツを深く考え、文化的スポーツ、社会スポーツ等に関心がある人。実技は事前に打ち合わせの上、希望者のみ。			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
筆記用具、興味関心のある先行研究などの資料があれば持参する。			
費用 (見込み)			

番号	RL-Room	担当	人数
11	音楽表現		7人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>・「表現豊かな音楽活動」を目指し、①②に関して研究活動を行う。</p> <p>① 全員で1つの楽曲を作り上げる音楽活動を通し、豊かな表現活動の向上に取り組む</p> <p>② 個人で音楽表現に関わる研究テーマを設定し研究に取り組む。</p> <p>・ A3 ポスター、A4 研究要旨の作成 (フィロV全員)</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>・ バンド活動 (大きな音が出る活動など) はできません。</p> <p>・ 音楽表現の講座なので、調べ学習 (専門書を読み進める) だけになることのないよう、演奏や実験などの活動にも取り組みます。</p> <p>・ 表現活動(発表含む)が多いので、苦手な人は得意になるようにしましょう。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<p>・ 「どんな内容の表現活動をしようか」考えておきましょう。</p> <p>・ 筆記用具</p>			
費用 (見込み)			
個人の研究テーマに必要な楽譜などを購入します。持っていれば購入はありません。			

番号	RL-Room	担当	人数
12	「美術にまつわる研究」		7人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>自分の興味・関心から「美術」に関わるテーマを設定し研究する。</p> <p>1 学期 共通の「美術」に関わる講義や実習を受講する。</p> <p>2 学期 研究テーマを決定し、調査や実験、実験的な制作などを行う。</p> <p>3 学期 ポスター・論文としてまとめる。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
制作がメインの講座ではないので注意してください。しかし、実証のために制作を行うことは可能です。学期に1度は発表会を設定します。パワポなどを使い視覚的な発表を行ってまいります。			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
筆記用具			
費用 (見込み)			
実験的に制作を行うなどする場合は実費。共通で書籍を購入する場合もある。			

番号	RL-Room	担当	人数
13	SDGs 国際研究		13人
内 容 (目標, 進め方など)			
目標			
<p>持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals (SDGs) に向けた取り組みが日本を含めて諸外国で行われています。SDGs は 2015 年 9 月の国連サミットで採択されたもので、2030 年までに達成を目指す 17 の世界的目標、169 の達成基準、232 の指標からなる持続可能な開発に向けた国際的な目標です。</p> <p>この講座では、SDGs について理解し、各国の取り組みを分析、比較することなどを通して、社会的な問題に対する認識を深め、解決策を考察します。また、各国の取り組みを比較したりすることにより、そこから見られる人々の価値観などを考察します。課題発見力、探求心、創造力、表現力を身に付けることを目標とします。</p>			
進め方			
<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs の概念、背景を理解します。書籍を読んで、要点を話したり、講演を聴いたりする予定です。 ・日本の SDGs に対する取り組みについて調べ、発表し、話し合い、理解を深めます。 ・諸外国の SDGs に対する取り組みについて調べ、発表し、話し合い、理解を深めます。 ・各国の SDGs の取り組みから、その国の背景や価値観について調べ、発表し、話し合い、理解を深めます。 ・テーマを決め、研究を進め、発表し、話し合います。 			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
各国の SDGs の取り組みを通して、その国の実情、情勢、歴史的背景、価値観を知ることに関心がある生徒、国際比較、国際的な取り組みに関心がある生徒を募集します。英語の文献を読んだり、英語でディスカッションをしたりすることもあるかもしれません。			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
今までで授業などで SDGs について学んだことや知っていることについて、まとめておいてください。メモ程度でかまいません。筆記用具を持参してください。			
費用 (見込み)			
未定 (書籍等を購入してもらう可能性があるかもしれません。)			

番号	RL-Room	担当	人数
14	国際理解・Parliamentary Debate		13人
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>今自分に見えている世界は、世界の真の姿と言えるのでしょうか。ALT や外国人講師との交流を通して、様々なものの見方を学んでみませんか。グローバル化が進む社会において、自分たちは将来どう生きていくのかを考えるとともに、ディベートの実践を通して議論の能力を磨いていきましょう。</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ALT や外国人講師との交流を通して、様々な価値観を知る。 ● ディベートの実践を通して、自分の考えを根拠とともに伝えたり、論理的な議論を行ったりする力を鍛える。 ● 研究活動を通して、課題を発見し、解決する力を養う。 ● 英語力を高める。 			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
英語力を高めたい、海外の文化やディベートに興味がある、そんな生徒を募集しています。生徒のみなさんの主体的な活動を期待します。			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
なし			
費用 (見込み)			
<p>購入が望ましいもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ● A4 ファイル (プリント類の整理用) ● 学問のすすめ/福沢諭吉 			